

近年確認された大手門関連資料

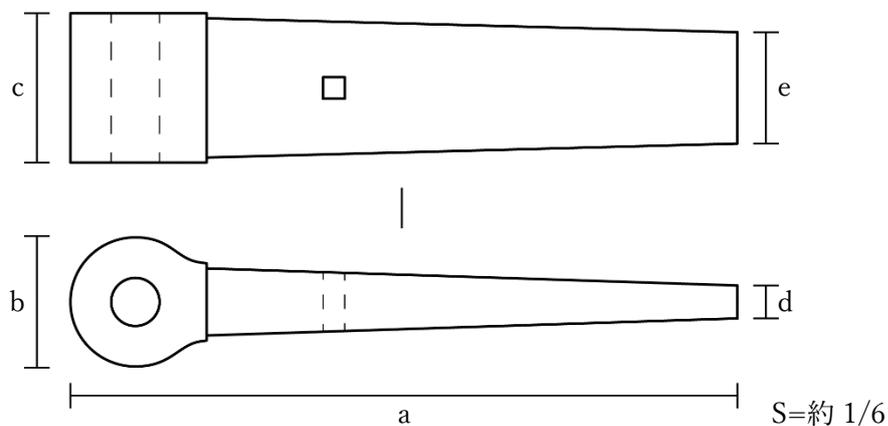
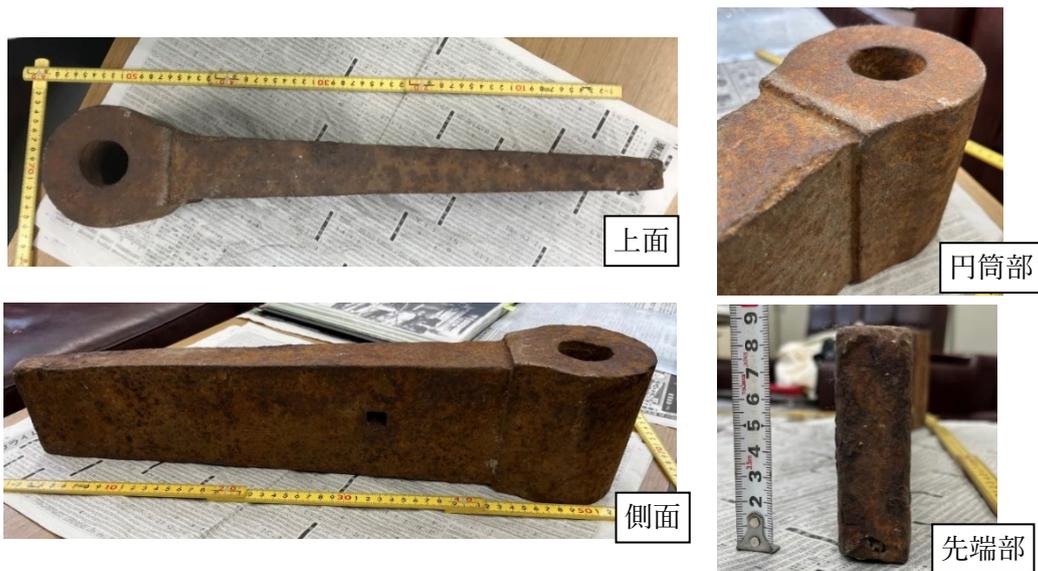
- ・梅津氏コレクション…別紙参照
- ・文化財課寄贈資料

(1) 発見の経緯

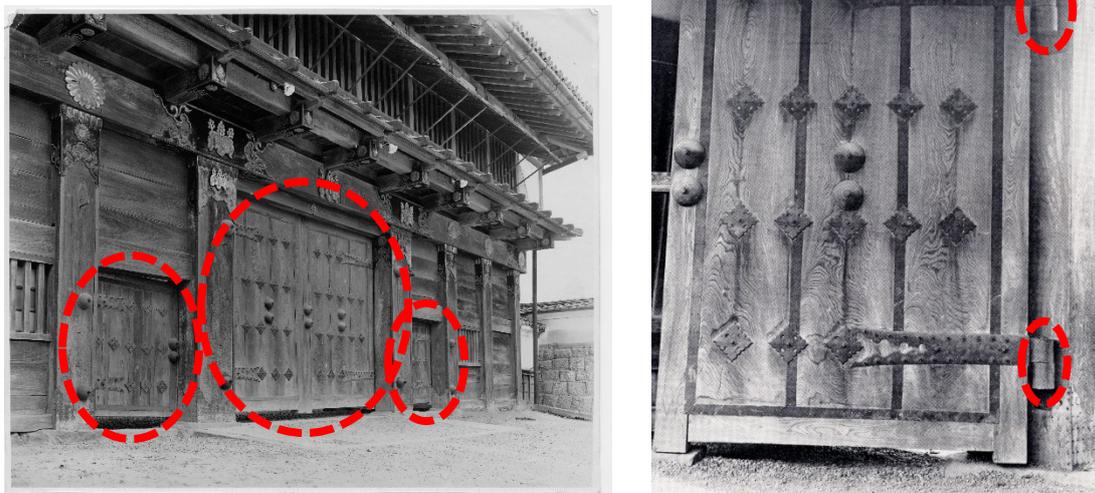
- ・若林区蒲町在住の方が保管していた、仙台空襲後に大手門周辺で拾ったと伝えられていた金具が七郷市民センターに持ち込まれ、令和6年7月8日に文化財課に調査依頼があった。
- ・文化財課で令和6年7月18日に実物を確認し、大手門の金具(蝶番)の可能性が高いと判断され、所有者の意向もあり令和6年8月7日に寄贈を受けた。

(2) 金具の特徴

- ・全体形がクサビ形で、クサビ形の棒状の部分と円筒状の部分で構成されている。棒状の部分の側面には方形の穴(釘穴か)があいている。錆などの状況から鉄製と考えられる。
- ・大きさは、全長 52.4 cm(a)、円筒部幅 10.2 cm(b)、厚さ 11.8 cm(c)、先端部幅 2.6 cm(d)、厚さ 8.8 cm(e)、円筒部の穴は径 3.8 cm、側面の穴は一辺 1.7 cmとなる。
- ・形状から、門扉に使用する蝶番(肘壺)と考えられ、古写真から判断すると、大扉または脇扉で使用されたと蝶番(肘壺)と考えられる。また、釘穴が一箇所であるため、門柱側の金具である可能性が考えられる。



第1図 金具の写真(上)と模式図(下)



第2図 大手門正面(左)と門扉(右)の古写真(仙台市 2006・仙台市教委 1967 より引用し加筆)

第1表 城郭で使用された蝶番と門扉の大きさ

城郭名	使用された門 ※1	金具※2 (cm)			釘穴数 (箇所)	門扉 (m)		備考
		全長(a)	高さ(c)	外径(b)		幅	高さ	
仙台北跡	大手門大扉	52.4	11.8	10.2	1	2.4	3.7	門柱側の金具か
	大手門脇扉					1.8	2.0	
鹿児島城跡	御桜門大扉	132	17.8	17.0	3	2.4	5.1	門扉側の金具
	御桜門潜戸	67	11.8	9.0	4	1.8	2.9	門扉側の金具
高松城跡	桜御門大戸	47.5	10.5	9.1	2	1.6	3.0	門扉側の金具

※1：門の名称は各城郭で使用されている名称を用いた。

※2：仙台北跡のものと同様の金具の大きさ。

※3：仙台北跡の金具は使用された門が不明であるため枠を結合している。

※4：網掛けは復元建造物を示す。

参考文献

仙台北 2006『仙台北史 特別編7 城館』

仙台北教育委員会 1967『仙台北』

高松市・高松市教育委員会 2023『史跡高松城跡(桜御門復元整備工事) 史跡高松城跡整備報告書 第13冊』高松市埋蔵文化財調査報告 第242集

鶴丸城御桜門建設協議会事務局 2021『鹿児島県指定史跡鶴丸城跡 御桜門復元整備工事報告書』



2024年7月2日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

仙台空襲で焼失した旧国宝・仙台城大手門の金具類
実物を79年ぶりに確認 装飾に関する新史料も
—東北大学の歴史資料保全活動および授業が発見に貢献—

【発表のポイント】

- 旧・仙台城大手門（旧・国宝）の一部とみられる金具類が仙台市内で発見され、関連文献と照合した結果、実物であると確認されました。仙台城大手門は、昭和20(1945)年7月10日の仙台空襲により焼失しています。
- また、焼失前の仙台城大手門にあった装飾物（菊と桐の紋）が、明治30年代に取り付けられていた可能性を示す新史料も発見されました。
- 仙台市は2021年、「史跡仙台城跡整備基本計画」を策定し、旧仙台城関連調査を進めてきました。今回の発見は、将来の仙台城大手門復元に向けた貴重な史料となります。
- 市民ボランティアと協働している東北大学災害科学国際研究所の歴史資料保全活動、および本学の学部生向け授業が発見につながりました。



図1. 「通称大手門・昭和廿年戦災焼失」と記された箱の蓋書き



図2. 箱の中に収められていた釘隠し（右）、釘3種類（左）、飾り金具（上）

【詳細な説明】

発見の背景

東北大学災害科学国際研究所の佐藤大介准教授（専門・日本近世史）は、2023年度の本学の全学教育講義「学問論演習」（学部1年生向け、2023年10月～2024年1月）において歴史資料レスキューの実習を行いました。佐藤准教授と学生らは、実習の一環として、収集家・郷土史家であった故・梅津幸次郎氏（1903～77）のコレクションに関する調査を実施し、2023年11月6日、約20点の金具類や瓦を確認しました。この中には、「昭和20年7月10日に戦災焼失した仙台城大手門の金具である」旨が記された箱（図1）に収められた金具類（図2）や、焼損・変形した物品が含まれていました。佐藤准教授らは、現所蔵者の協力を得て、物品の採寸等、さらなる調査を進めました。

一方、仙台市は、「史跡仙台城跡整備基本計画」（2021年策定）に基づき将来の仙台城大手門復元に向けた調査を進めており、大手門関連文献として、明治中期の旧陸軍による修理記録、ならびに、昭和初年の仙台高等工業専門学校（東北大学の前身の一つ）の調査記録を把握していました（いずれも個人所有）。

今回の取り組み

(1) 仙台城大手門金具類（実物）

2024年5月30日、佐藤准教授らと仙台市教育委員会文化財課が共同で調査を実施し、金具類の現物と、仙台市が把握していた文献に含まれている旧仙台城大手門の金具類の模写を照合した結果、今回確認された金具類は、仙台城大手門に使われていた実物であったと結論しました。

(2) 仙台城大手門の装飾（菊と桐の紋）に関する新史料



2024年5月30日、実習に参加していた学生が梅津氏コレクションから、さらに菊の紋の拓本およびその説明書きからなる史料（図3）を発見しました。

拓本は木製とみられる大きな菊の紋のもので、その説明は大正元（1912）年11月に書かれたとみられ、「明治20年代末に大手門の解体が検討された際、当時の第二師団長の働きかけで解体は回避され、さらに門に新たに菊と桐の紋を付すことになった」「新たに大手門に取り付けた菊の紋は、かつて仙台城本丸の建物に飾られ、今は青葉神社に保管されている紋を模して作成した」旨が記されていました。

図3. 拓本と説明書き

戦前に撮影された写真から、仙台城大手門には桐や菊の紋が付されていたことが確認できます（図4）。今回発見された新史料により、少なくともその一部は、江戸時代初期の創建時ではなく、明治時代に取り付けられたものである可能性が高まりました。

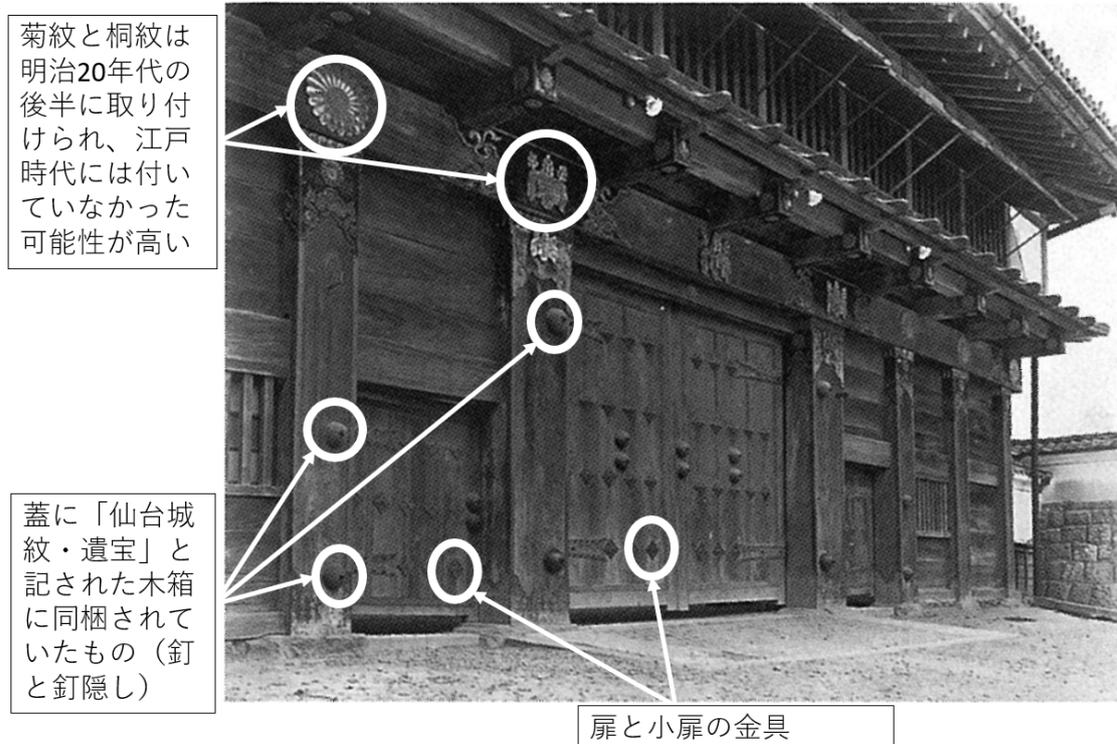


図4. 今回の発見と仙台城大手門の関連（写真は戦前に撮影されたもの。写真出典：『仙台市史 特別編7 城館』仙台市2006年、380ページ／原資料・仙台市博物館所蔵）

本件の意義は、主に以下3点です。

(1) 仙台城大手門復元や仙台城研究の進展に貢献

今回発見された金具類や新史料により、大手門各部の金具の形状・大きさ等をより正確に把握することが可能になりました。金具が取り付けられていた柱の寸法や、江戸時代当時の仙台城大手門外観の正確な復元に資する有力な史料となります。

あわせて、金具そのものの材質調査や、関連記録との照合により、大手門創建当時の冶金技術、建設に際しての材料の調達など、仙台城に関する新たな歴史を知る手がかりともなります。

(2) 「地域に開かれた大学」としての活動の有用性

東北大学災害科学国際研究所は、東日本大震災をはじめとする災害で被災した史料の保全活動を、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークの市民ボランティアの協力を得て実施してきました。

昭和 28(1953)年の報告書に、梅津氏コレクションは推定約 2 万点との記録がありました。その後、コレクションの所在は長らく不明となっていました。しかし、上記の市民ボランティアの一人が梅津氏ご遺族と知人関係にあり、佐藤准教授に梅津氏収集品に関して相談し、収集品が東北大学の実習・調査の対象となったことが、今回の発見につながりました。結果として貴重な梅津氏コレクションが約 70 年ぶりに再発見され、仙台城大手門復元の手がかりを得ることとなりました。

「地域に開かれた大学」である東北大学の、市民と協働で実施する授業や歴史資料保全活動が、歴史の解明に有用であることが改めて示されました。

(3) 各地の歴史再生の手がかりとなる「梅津幸次郎コレクション」

梅津氏のコレクションには、戦災で焼失したかつての仙台城下町に関する史料、さらには東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸沿岸部の記録も含まれます。多くの史料を失った地域における歴史の空白を埋めるものとして期待されます。

今後の展開

今後、佐藤准教授らは、梅津氏コレクションのデジタル記録化・共有を目指していく予定です。今後、コレクションが、各地の歴史を復元・再生する重要な手がかりとなることが期待されます。さらにその過程を「文化財の活用」として位置づけ、市民参加型で実施することで、歴史資料の保全を契機とするまちづくりの実践も目指していきます。

【問い合わせ先】

(研究内容に関すること)

東北大学災害科学国際研究所 歴史文化遺産保全学分野
准教授 佐藤 大介

TEL: 022-752-2143

Email: daisuke.sato.e2@tohoku.ac.jp

(報道に関すること)

東北大学災害科学国際研究所 広報室

TEL: 022-752-2049

Email: irides-pr@grp.tohoku.ac.jp